

第5回塩竈市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成28年1月12日(火)
開会 15時00分 閉会 17時00分
- 2 会 場 塩竈市教育委員会 壺番館3階共用会議室
- 3 出席者 塩竈市長 佐藤 昭
塩竈市教育委員会
委員長 柴田 仁市郎
委員長職務代行者 太田 忍
委員 山田 達磨
教育長 高橋 睦麿
- (事務局)
- | | |
|---------------|--------|
| 市民総務部長 | 神谷 統 |
| 教育部長 | 菅原 靖彦 |
| 教育部教育総務課長 | 渡辺 常幸 |
| 教育部学校教育課長 | 高橋 義孝 |
| 教育部生涯学習課長 | 本田 幹枝 |
| 教育部市民交流センター館長 | 伊東 英二 |
| 教育部教育総務課総務係長 | 菊池 亮 |
| 教育部教育総務課専門主査 | 鈴木 和賀子 |
- 4 欠席者 塩竈市教育委員会
委員 池野 暢子
- 5 協議事項 議題1 塩竈市教育大綱(素案)
- 6 概要
- 開会
 - 佐藤市長あいさつ
 - 柴田委員長あいさつ
 - 出席者紹介
 - 協議事項
- 議題1 塩竈市教育大綱(素案)について

【主な意見】

【教育大綱全体構成について】

〈佐藤市長〉 塩竈市の長期総合教育との一貫性から、2 ページのような形で章立てをした。8 項目を重点的取組としたことについて事務局からご説明いただきたい。

〈渡辺教育総務課長〉 総合教育会議で集中して議論のあったものから各施策の中心となる取組、また、塩竈市の長期総合計画でまだ目標値に達していない部分について重点的取組とした。

【第 2 章 基本方針について】

〈佐藤市長〉 4 ページの基本方針で「確かな学力」「人を思いやる心」「健やかな体」と掲げられているが、2 ページには、「豊かな心を育む教育の充実」と「健やかな体の育成の推進」が重点的取組とされていないが、重点的取組を抽出する必要はあるか。

〈高橋教育長〉 文部科学省では、「生きる力」を、「確かな学力」「人を思いやる心」「健やかな体」の三本柱として規定していることから 4 ページの表現とした。

また、本市においては、「学力の向上」「不登校問題」を重点課題としてあげているため 2 ページのように重点的取組とした。

「健やかな体」については一定の成果を上げており、「人を思いやる心」は全体の中で育てていこうとするものである。

〈佐藤市長〉 施策 5 では、「歴史の継承」と「文化・芸術活動の機会の充実と支援」とあり、後者を重点的取組としている。この場合の、プライオリティ（優先順位）はこのとおりでいいか。

〈柴田委員長〉 「歴史の継承」と「文化・芸術活動の機会の充実と支援」をひとつにする方法もある。

〈山田委員〉 「人を思いやる心を育む」ことが「不登校・いじめ対策の充実」につながったりと、それぞれの項目につながりがあると思うので重点的取組のように区別をつけなくてもよいと思う。

〈太田委員〉 施策 1 の「学力の向上」「豊かな心を育む教育の充実」「健やかな体の育成の推進」が最も重要ですべてにつながっていくと思う。

〈佐藤市長〉 ひとつひとつの項目が重要であって、あえて重点的取組とする必要はないでしょうか。

〈高橋教育長〉 「生きる力を育む教育の充実」における重要課題は、第 1 回の総合教育会議でも取り上げられた「学力の向上」と「不登校問題」である。この問題は、非常に根深く、早急に取り組まなければならない課題と考えている。現在、策定中の塩竈市の教育振興基本計画のなかでも、ひとつひとつの事業として反映されるものとなっているので、重点的取組を抽出する必要があると考えている。特別支援教育についても、国でも推し進めており、塩竈市でも支援を必要とする児童・生徒の数が増えており、現状に苦慮している。対応についての具体的な事業も考えているので、「生きる力」については、3 本の重点的取組を抽出することで課題を明確にしていきたいと考えている。生涯学習については、意見を頂戴してもらう少し考えてみなければならない。

[方針1について]

- 〈高橋教育長〉 施設一体型の小中一貫教育の方が、効果があるとされているが、学校統廃合の問題などもあるため、本市においては、施設分離型の小中一貫教育を目指していきたいと考えている。
- 〈柴田委員長〉 子どもたちが触れ合うということが一番重要なことであり、先生が入れ替わるということでは、物足りないと感じる。
- 〈高橋教育長〉 合同の様々な行事や授業を行い、垣根を取って中一ギャップを解消しようとするものである。
- 〈山田委員〉 二小以外は、全員が同じ中学校に進むが、二小だけは、二つの中学校に分かれる。その意味で、二小の負担が大きいのではないかと思う。中学校区ということでの分け方は、課題ではないかと思う。
- 〈高橋教育長〉 今後の課題である。学区の見直し等も視野に入れながら考えなければならない。
- 〈山田委員〉 小中一貫教育はいろいろな問題もありますが、校舎も一体型が最終的には望ましい。
- 〈高橋教育長〉 統計的にはそのほうが効果はあるとされている。
- 〈佐藤市長〉 短期的問題は、施設分離型の形だとしても、長期的には、施設一体型が望ましいということですね。4ページの塩竈独自の小中一貫の教育について、市民の方に理解していただきやすく補足する。

[方針2について]

- 〈柴田委員長〉 地域と家庭のつながりをもう一度見直していかないと、学校と家庭だけではうまくいかないと思う。
- 〈高橋教育長〉 学校評議員や「110番の家」で地域の方にはご協力いただいている。浦戸では、卒業生の父兄と在校生の父兄とで組織を作り、浦戸の持つ教育の独自性を伝授している。地域と家庭と学校の連携の原型かと思うので、そのような組織を持てるとよいと思っている。
- 〈柴田委員長〉 現代は、あまりに個人主義が発達しすぎて、家庭に口出しすることが困難な雰囲気がある。もう少し地域が関わられるコミュニケーションが確立できればよいと思う。
- 〈佐藤市長〉 地域の方は、どのように関わればいいのかわからないのではないかと思う。交流の場があればいいのだが。学校評議員というのは、ごく一部の方であり、文化祭・体育祭に招待するといった、仕掛けができれば違ってくると思う。
- 〈太田委員〉 運動会や大会など地域で参加できる仕組みを作って、地域同士の交流をつくっていかねばならないと思う。スポーツフェスティバルも参加者が少ないので、もっと参加できるような工夫が必要かと思う。
- 〈柴田委員長〉 「学校・家庭・地域の連携」とお題目はあるのですが、実際は、機能していない。
- 〈太田委員〉 運動会でも、親が出るものが少なくなり、希薄になってしまう傾向がある。地域の人たちの顔を覚えることが大切であり、子どもと向き合う時間が大切だと思う。少しでも向き合う時間は作れると思うので、家庭だけでなく、地域でも向き合う時間を大切にするべき。先生も親も子どもの目を見て向き合うことが重要である。
- 〈柴田委員長〉 一人でも目をみて話してくれる大人がいると決して悪いことはできないと思う。
- 〈佐藤市長〉 地域がどう関わり、向き合えばいいのかを教育大綱には表記する。

[方針3について]

〈柴田委員長〉 廃校になった学校で、市で運営する料理学校をつくったところ、非常に好評で他市町村から生徒がたくさん集まったという話を聞いたことがある。地元の野菜等を使い、地元の料理人を講師にしていた。このような取組が、将来的に塩竈でも考えることはできるかと思う。塩竈の食文化は、全国から高い評価を受けているので、すし職人、フランス料理人の方と一緒に活動する中で、塩竈に新たに教育文化が生まれるかもしれない。

〈太田委員〉 「塩竈ならではの資源の活用」とあるが、「資源」の表現が自然物をイメージする。「資源」より「財産」の表現はどうか。

〈柴田委員長〉 「資源」の中に塩竈の景観も入れてほしい。塩竈の景観活用もあってもよいと思う。

〈山田委員〉 塩竈ならではの資源の活用については、子どもたちへの教育では様々な人にふれることができること、生涯教育では、高齢の方が何らかの形で人の役に立っているということは生きる力につながるので学校教育・生涯学習の両方面から充実していき、そして、新たな相乗効果を生み出すものだと思う。

【第3章 施策体系について】

[施策1] 生きる力を育む教育の充実

〈太田委員〉 7ページの(1)④小中一貫教育の推進と10ページ(8)特色ある学校づくりの小中一貫とは異なるのか。

〈高橋教育長〉 7ページが施設分離型でこれから推進しようとしている小中一貫教育を指し、10ページの小中一貫は浦戸小中の一貫教育を指している。

〈柴田委員長〉 早くから子どもの長所や才能をいかにみつけてそれを引き出してあげるかが重要。学校教育では、みんなと同じことを学びつつ、子どもの特長を伸ばしてあげることが大切である。

〈高橋教育長〉 自分が素晴らしいと思える自尊感情を心の中に育ててあげることが一貫教育のねらいでもある。

〈太田委員〉 重複している項目があるようなので、もう少し項目の整理はできるのではないか。

〈太田委員〉 昔から「中一ギャップ」はあったのか。

〈高橋教育長〉 あったのだが、昔はのりこえられてきた。いったんつまずくと、起きあがれないというように心の耐性・体力が下がっているということである。

〈山田委員〉 他市町村との交流を深めるという項目があるといい。他の市町村を見ることによって、改めて塩竈の良さに気づくということもある。

[施策2] 学習環境の充実

〈佐藤市長〉 塩竈市の学校は老朽化しており、一方で、少子化が進んでいる。小中一貫教育の実現という選択肢はないのか。

〈高橋教育長〉 震災を機にそのような選択をしている市町村も多々ある。学校統廃合と小中一貫教育を同時にすると軋轢が多い。

〈佐藤市長〉 なかなか切り替えは難しいが、一定程度視野には入れていかなければならない。

教育委員会の中で引き続き議論していただきたい。

[施策3] 地域社会との連携強化

- 〈佐藤市長〉 学校現場で地域の方々に学校の活動をお知らせする機会はどのようなものか。
- 〈高橋教育長〉 地区の方々に地区長さんを通して学校便りを全戸配布していたり、例えば一中では、「13歳のかけはし」という行事があり、みのが丘地区の方に集まっていたり交流会を行っていたり各学校で様々な企画をしている。
- 〈柴田委員長〉 学校行事の際に、地域の方に協力や参加の機会をつくり、参加させる意欲を高めるようなしかけが必要かと思う。子どもたちの防災事業で、地域の方に参加していただくのはよい企画だと思う。
- 〈佐藤市長〉 塩竈市の広報誌を使って呼びかけすることはできると思う。28年度には、子ども版の広報誌の配布を企画しているので、学校の行事をその中に入れるなどすることも考えられる。現在は、双方向性が確立されておらず、お互いに一步を踏み出すというところまでっていない。
- 〈太田委員〉 全国的に学校でいろいろな事件があり、学校に何もないうちに行くことがはばかれる風潮がある。行事等の案内をいただければ行きやすい。
- 〈佐藤市長〉 地域の方々が参画できるプログラムで、共同で行うようなものがあると定着力があつてよいと思う。
- 〈山田委員〉 楽しいものであつた方がよい。何かを一緒に作って食べるという要素はよいきっかけになると思う。
- 〈太田委員〉 給食参観が一番楽しい。地域の方々に給食を食べていただき、昔の給食等のお話をする機会があればいいと思う。

[施策4] 生涯学習の推進

- 〈太田委員〉 社会教育団体が多く、生涯学習を学びたいという方がとても増えており、施設が不足していることが悩みである。
- 〈佐藤市長〉 公民館や本町分室の予約がいっぱいで使えないとの声をよく聞く。もっと使える施設を積極的にPRしたい。視聴覚室、工作室等使える資源が行政にありながら、それをフルに活用していない。市民活動がやりやすい環境を提供する視点で考えたい。生涯学習の推進の中に稼働率の低い施設の活用を記載する。
- 〈柴田委員長〉 空いている施設を検索できる検索システムなどがあるとよい。
- 〈伊東館長〉 システムの活用も有効かと考えている。
- 〈山田委員〉 塩竈市の生涯学習の機会の提供は、よくされていると個人的には感じている。自ら活動的に参加している方ではなく、まったく参加されていない方にどうやって一步を踏み出してもらおうかということが課題かと思う。
- 〈菅原部長〉 (1) ②「各年代にふさわしい多様な学習機会の提供」の項目について、参加率の低い年代層があるので、現在行っている生涯学習のサービスとは別の視点でニーズを探れないかということで検討している。
- 〈柴田委員長〉 公共施設では利用時間や飲食の制限がどうしてもある。公共施設という概念にとらわれないで、見直ししていくということも大事な事かと思う。
- 〈佐藤市長〉 自ら可能性の限界を狭めていくのではなく、可能性を拡大できないかという視点

で生涯学習を推進していきたい。

[施策5] 歴史の継承と文化の振興

〈佐藤市長〉 杉村惇美術館でカルタ取り大会を行っていた。子どもたちは絵札をつくり、読み札も講師の指導のもと作成していた。塩竈の歴史文化がそのかるたの中にちりばめられており、そういうことが、期せずして、歴史の継承と文化の振興になっているのと感じた。塩竈でも生涯学習の骨組みは出来上がっているが、それをどう活用していくかというのをもう一つ踏み込まなければならないのではないかと感じている。例えば、歴史的建造物を指定して終わっているが、その後どう活用するかという、ソフト面が不足している。

〈菅原部長〉 美術館の事業で本町分室、亀井邸やえびや旅館などの建築物を巡りながら塩竈の文化を探り、語り合うというのを企画している。

〈佐藤市長〉 地域と学校の交流もこのような企画を通して行うこともできる。かるた取り大会などもご父兄がいらっしゃり交流の場になっている。ソフト面の充実に期待していただきたい。

[施策6] 生涯スポーツの推進

〈高橋教育長〉 課題としては、各スポーツ団体の高齢化の問題がありチーム数が減って後継者が少なくなっていることである。

〈柴田委員長〉 部活動の種目、人数が減っている中で、地域型総合スポーツクラブで中学生、一般の方の融合・交流を深めていく形を模索していくべきだと思う。

〈高橋教育長〉 小学生については、現在、放課後児童居場所づくりとしてモデル校をつくって地域の方にご協力いただきながら進めている。

〈佐藤市長〉 スポーツをするのは一定程度費用が発生するが、日本ではなかなかそのような考えが定着しない。それだけの対価を払って、スポーツを行う機会が必要なのではないか。今回の放課後児童居場所づくりは、利用者に費用が発生するのか。

〈高橋教育長〉 はい。指導者の交通費程度は払っていきたいという考えである。

〈佐藤市長〉 教育大綱の中でどのようにそのような活動を応援していくかということを示すべき。民間の方の力をお借りしながらも、一方では、この町にスポーツが定着することの仕組みをつくる責任がある。

〈太田委員〉 放課後児童居場所づくりとはどのようなものか。

〈高橋教育長〉 小学生に遊びの場を提供しようとするものである。様々なスポーツを体験する場であり、そのなかから、子どもたちに自分に合うスポーツを見つけてほしいとするものである。

〈佐藤市長〉 大筋はこのまとめ方で進めるが、議論にあった重複する部分は整理する。一般の方々に目を通していただきたいので、補足説明するところには配慮する。

〈渡辺課長〉 今日いただいたご意見をまとめ、大綱(案)にパブリックコメントをいただき、再度意見をフィードバックして2月上旬の総合教育会議に出したい。

〈高橋教育長〉 目指すべき姿について意見を伺いたい。

〈柴田委員長〉 目指すべき姿は今日出た意見を含めて作成していただければと思う。

